

情報技術の匠

PROFESSIONAL

第50回

ITデリバリーの匠^{たくみ}

いつでも、ムードメーカー。

「元気で、お調子者。後輩にとってわたしは目標なのか、反面教師なのか? どうなのでしょう。でも、仕事って面白くないとやっていけませんよね。わたしは、とても楽しんでます!」

佐藤のカラッとさわやかな笑い声が響く。その笑顔は、お客様の前でも、後輩の前でも、志を同じくするメンバーたちの前でも変わらない。彼女はどこにいても、ムードメーカー。

現在、豊洲事業所でシステム運用のアウトソーシング業務のリーダーを務める佐藤。チーム・メンバー

は6名。入社1、2年から10年目の活気あふれる若手たち。その中にあっても一番元気なのは…

「わたし、でしょうね(笑)。ご飯やテニスに誘って楽しくやっています。若い人がのびのび楽しく取り組んでくれているのは、わたしにとってもうれしいことですから」

チーム・メンバーの仕事に対するモチベーションを維持すること。これはリーダーとしては重要な役割だ。前職ではサービスインまでの開発フェーズを担当し、現在は運用フェーズを担当。ここでもモチベーション維持の方法論は変わってくる。

「開発フェーズであればサービ

スイン後のタイミングで打ち上げをして『お疲れさまー、次も頑張りましょう!』でも運用フェーズはそういうわけにはいきません。はっきりとした切れ目があるわけではない。どちらも好きな仕事には変わりはありませんが、随分感覚は違うな、とは思いました」

複数のお客様と継続して歩み続ける現在の業務。新しいお客様をお迎えする時に、これから楽しく頑張ろう、という意味も含めて「前祝い」を企画する。それは彼女流の明るく楽しい出陣式。

「うまくいって当たり前の仕事。これからお客様と長い道のりを一緒に歩いていく。この仕事についてから、一層、動かし続けることの重要性が分かりました。作って終わりではない。使われ続けて、そこで本当にIBMを評価いただける、信頼いただける。厳しい仕事だからこそ明るく、楽しく。もちろんお客様の前では真剣な顔をしているんですよ。本当です(笑)」

ある意味明確なゴール地点があるわけではない。だが、佐藤が率いる若いチームのモチベーションは高い。

「できる人にはたくさんのことを求める。それを受け止めてくれる。本当は自分でお客様のところに



佐藤 裕美 (さとう ひろみ)

日本アイ・ビー・エム株式会社
ITデリバリー
SSO クロスサービス・インテグレーション
ICP エグゼクティブ IT アーキテクト
シニアテクニカル・スタッフメンバー

【プロフィール】

入社後、アカウント SE、IT スペシャリストとして、製造業の SI プロジェクトでのデータベース設計構築、アプリケーション共通機能設計開発、インフラ設計構築、運用設計などを担当。2004年 IT アーキテクトに移行。2006年から現職。2007年、TEC-J SIG「システムライフサイクル・トレーサビリティ」を立ち上げ、「3D インターネット」にも参加、2008年には、「IT デリバリー ITA コミュニティ」を立ち上げるなど組織横断的な技術コミュニティ活動にも貢献。

行って、自分で何でもやってしまいたい性格なのですが、皆さんがやる気をもって前向きに取り組んでくれているおかげで、ちゃんとリーダーとしての仕事ができているような気がします。そういえば、いつもわたしがやっていた食事会の幹事も最近はやってくれていますね」

佐藤の勢いには負けてられない、それがメンバーの本音かもしれない。立ち止まっているとこのリーダーはどんどん、自分たちの仕事を奪っていく。しかもさわやかに笑いながら。仕事も楽しいことも負けてられない。反面教師でも目標でもなく、一緒に笑顔で走る仲間。



佐藤は自分のことを「目の前にニンジンがあると頑張れるタイプ」という。

「以前、プロジェクトの追い込みの時。深夜でしたね。なにかニンジンをぶらさげないと乗り切れないかなと思って。そうだ、終わったら旅に出よう。そう考えた瞬間、即、ネットでチケットと宿の手配（笑）」

これは分かりやすい「ニンジン」だが、こんなことも佐藤はニンジンだと思っている。

「最近大学院に通い始めました。MOT（技術経営）の勉強をするためです。仕事が終わってからは毎日通っています」

MOTはマネジメント・オブ・テクノロジーの略で、「技術に立脚する事業を行う企業・組織が、持続的発展のために、技術が持つ可能性を見極めて事業に結び付け、経済的価値を創出していくマネジメント」

という概念である。ITデリバリーのサーバー・システム・オペレーションにおけるテクニカル・アドバイザー・ボードのリーダーでもある佐藤。つまり部門を横断して幅広い知識、新しい経験を常に求めなければならない立場にある。あるのだが、彼女にとって大学院通いは、義務でも努力でもなく、自分へのニンジン。

「毎日大変ではないか？ いえいえ、楽しいですよ。ほかの会社の方々と利害関係なしにお話しすることは刺激になりますし、何よりも外の空気を吸う楽しさ。定時に上がって学校に行く。そのために業務には集中して取り組む。会社で残業することを考えたら、めりはりも付きますし」

大学院にはさまざまな企業、職業の方、現役大学院生から定年退職された方まで幅広い年齢の方がいる。普段接する機会がない方々と机を並べる時間はインプットであり、同時にアウトプットの時間。さらに、この交流は授業だけではないようだ。

「一緒にお食事に行く機会も。そこでもいつの間にか幹事役（笑）」

佐藤の屈託のない笑顔は、立場が変わっても、どんな場面でも変わらない。それは自分にとってのエネルギーでもあり、接する人すべてを元気にするエネルギーでもあるのかもしれない。



もともと、あまりくよくよしない性格。悩んだらジムに行って体を動かし、汗を流せば新たな気持ちで、また立ち向かえる。しかし、佐藤

は知っている。目の前のニンジンだけでは立ち向かえないことを。そして、一人では立ち向かえないことを。

「相談できるいろいろな相手がいる。退職してもなお親身にアドバイスをいただける先輩も。そのおかげでわたしの今があるのでしょう」

今度はわたしも誰かの力にならなければ…これまでずーっと笑顔だった表情に、固い決意が現れた。しかしすぐにまた、カラッとした笑顔が戻る。

「専門性よりも幅広い知識がわたしの持ち味。これからもあまりリーダーということに縛られず、現場感覚でキャッチアップを忘れずにやっていきたいですね」

動き続けていることが幸せ。そんな佐藤に、この夏、大きなニンジンが。会社規程の長期休暇だ。

「せっかくですのでヨーロッパを回ろうかなと思っています。イタリアからスタートして友人が住んでいる英国へ。それだけは決めています。後は流れに任せて。今、ガイドブックを見るのが楽しくて。バックパッカーでもいいかなあと考えているのですが、さすがに許してもらえないかも（笑）」

でも、彼女にとっての最高のニンジンはきっと、誰かの笑顔。一緒に歩み続けるお客様、自分を追い越そうと頑張るチーム・メンバー、大学院で出会った新しい友人たち…。

自分の笑顔が、もっと大きな笑顔の輪を作っていく。だから、立ち止まっているのはもったいない。落ち込んでいてはもったいない。ニンジンはどこにだってぶらさがっている。